百姓共刑浪人四方拾人出而白川表へ引出
置より引出を歩行らんとの所の体者くい之な
人達先大方ケ拾ハ人の通中を一又金脇を
和家中殺うた白川を枕として討死を遂げし也
各神水と呑て従帷子を赤く血痕を加け死切て
取出白川表へ四番隊につゞ打三九を以て攻寄ら
拾い四人救殺ずく討る一くん御撫て寄合小出立ら
けらなる乙度を以九て加世をそ中ら拾合出
こゝ出一くれい四而い八月四日小山を以三古川
人永こ百迄寄に四隊に迄ら

去程小金津神流の新城ハ法
而の善信逆上を出小ハ大国出世の御ケ年
帳を浮しれい別に背ら事ハれた押て
御御の出へ行られ次れい与矢元ら才の一筋殺せ
次い十月と刑百三万の家中法士小物
呼集め菩提所の雲洞庵と謙信公の出影堂
の眺沙門堂に於て一紙の起請文を書て妻
子を金津の城中に新屋口ゝ小ハ焼米積
立て厳くて坐ら佐竹公家老英拾所
と呼集軍法を出寄ら先人金津七日ら中